筑紫氏とはどんな武将？

福岡県筑紫野市周辺を本貫地とする一族で、九州の名門守護大名・少弐氏の一門とされる、有力な戦国武将（国人領主）です。

明応６年（１４９７）頃、筑紫満門の代に勝尾城に入り、以後、筑紫広門にいたる約９０年間、肥前・筑前・筑後３カ国の国境地帯に勢力を振るいました。

天正１４年（１５８６）７月、筑紫広門の守る勝尾城は、九州制覇を目指す島津氏との６日間に及ぶ攻防戦の末に落城しますが、翌月には筑紫方が城を奪還し、広門は豊臣秀吉の九州平定の軍に加わります。この功で、筑後国上妻郡（福岡県八女地方）１万８０００石の大名となりました。

広門はその後、文禄・慶長の役に出陣するなどしますが、慶長５年（１６００）の関ヶ原の戦いでは西軍で参戦したため改易されました。

のちに広門の子孫は徳川幕府の知行３０００石の大身旗本となり、筑紫家は存続します。

勝尾城筑紫氏遺跡関係年表

年号（西暦）	主な事項　※参考事項
応永30年（1423）	九州探題渋川義俊、勝尾城に入る。 **※初めて勝尾城の名が登場する。** 1467　応仁の乱
明応6年頃（1497～98）	筑紫満門が勝尾城に入城したとされる。 **※約90年間にわたり筑紫氏の居城となる。** 1543　鉄砲伝来
弘治3年（1557）	「筑紫宅所（勝尾城？）」が大友勢の戸次鑑連に攻められる。 1560　桶狭間の戦い
永禄3年（1560）	筑紫広門（鎮恒）が家督を継ぐ。
永禄11年（1568）	龍造寺隆信、毛利元就に対して「筑紫在所（勝尾城？）」攻めの許可を求めるも、元就、筑紫氏の居城が堅固であること、大友軍が駐屯していることを理由に退ける。 1582　本能寺の変 1586　秀吉の九州征討
天正14年（1586）	島津氏の人質要求を拒否。島津の軍勢、高良山に入り勝尾一帯を焼き討ち。勝尾城落城し、広門、大善寺に幽閉されるが、のち脱出し、勝尾城を奪還する。
天正15年（1587）	広門、豊臣秀吉の島津攻めに加わる。 **※秀吉の九州国分けによって、筑後の上妻郡1万8000石が与えられ、勝尾城を離れる。** 豊臣秀吉直書に「前筑紫居候つる城…（略）」とある。 **※これが勝尾城関係記述の最後とされる。** 1592～98　朝鮮出兵 1600　関ヶ原の戦い
慶長5年（1600）	関ヶ原の戦いで西軍に加わり敗北。所領没収。広門、肥後の加藤家の扶助を受ける。

◆用語解説◆

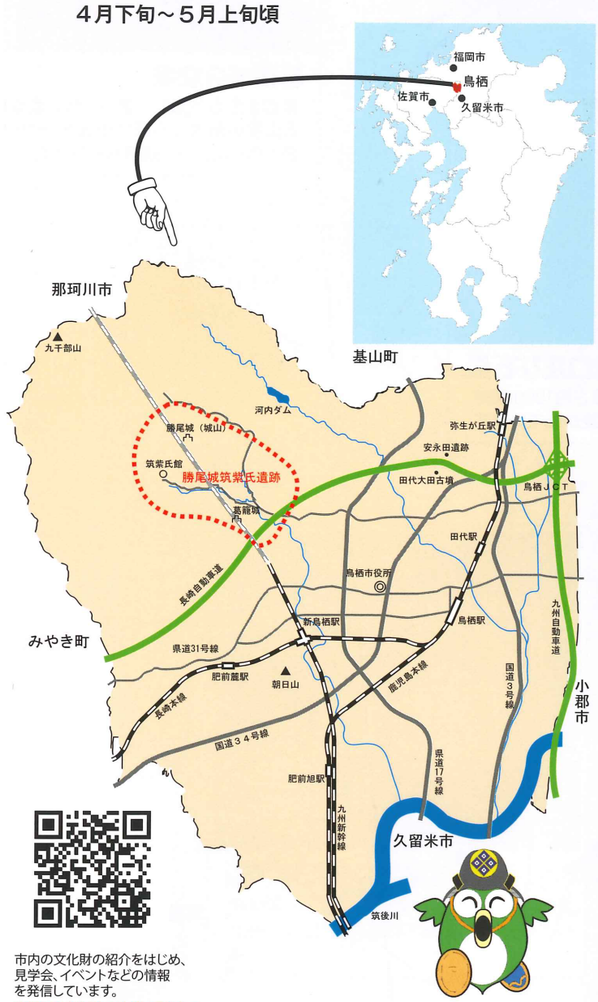
曲輪（くるわ）：軍事・政治的な意図をもって作られた平坦地。
土塁（どるい）：防御のための土手。
虎口（こぐち）：城の出入り口。
主郭（しゅかく）：城の中核となる曲輪。本丸ともいう。
堀切（ほりきり）：尾根を遮断した空堀。
畝状竪堀（うねじょうたてぼり）：斜面に連続して作られた堀。

勝尾城跡に咲く「サクラツツジ」

○ 花のみどころ
４月下旬～５月上旬頃

城山（勝尾城）の中腹以上に九州南部や四国に分布する亜熱帯性のサクラツツジが生息しています。屋久島に多く自生し、勝尾城周辺に隔離分布し、その北限の地になっています。

五十嵐 賢 氏撮影



市内の文化財の紹介をはじめ、見学会、イベントなどの情報を発信しています。
鳥栖市の文化財の情報はこちらへ
（公式スマートホーンサイト）

とっとちゃん戦国バージョン
（鳥栖市イメージキャラクター）

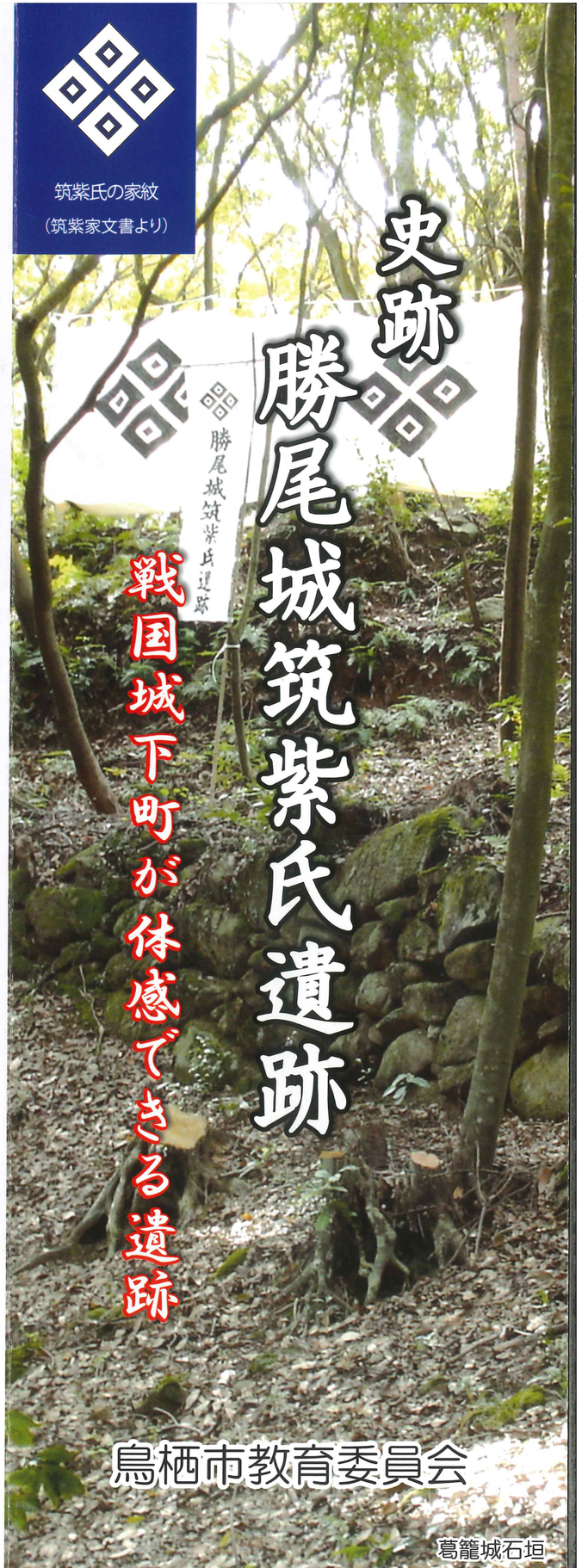
交通のご案内

◎遺跡入り口まで
ＪＲ鳥栖駅より西鉄バス
河内線　鳥栖駅発～東橋下車（約20分）

◎東橋バス停より
筑紫氏館跡　徒歩約40分（車で約5分）
勝尾城跡　筑紫氏館跡から登山道で徒歩約50分
葛籠城跡　徒歩約10分

問い合わせ先
〒841-8511　佐賀県鳥栖市宿町1118番地
鳥栖市教育委員会　生涯学習課　文化財係
TEL. 0942（85）3695

2020. 3



史跡 勝尾城筑紫氏遺跡

戦国城下町が体感できる遺跡

鳥栖市教育委員会

葛籠城石垣

勝尾城筑紫氏遺跡とは？

（かつのおじょうちくししいせき）

鳥栖市の北西部に所在する城山（標高約５００ｍ）の山頂と、その南麓の谷筋を中心に広がる、戦国時代後期（約４００～５００年前）の城下町遺跡です。北部九州で強大な力を発揮した筑紫氏が約９０年間にわたって本拠としました。遺跡の規模は東西約２.５㎞、南北約２㎞に及びます。

本城の勝尾城及び支城の縄張りや、館跡・屋敷跡・町屋跡の遺構、巨大な惣構や長大な空堀・土塁の遺構などが良好に残されています。

戦国時代の城下町の様子を知ることができる遺跡であり、特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡（福井県福井市）などとともに、戦国期の城下町と当時の人々の生活を考えるうえで重要な遺跡であることから、約２３０ヘクタールが国の史跡に指定されています。

主要な遺構

勝尾城跡（かつのおじょうあと）
筑紫氏の本城で、谷を内に取り込み、鳥が翼を拡げたように曲輪が配置され、土塁・石垣・空堀などが良好な状態で残っています。

筑紫氏館跡（ちくししやかたあと）
勝尾城の南麓にある筑紫氏の領地支配の中心となる政治の場で、石積みで造られた虎口や屋敷地が確認されています。

鬼ヶ城跡（おにがじょうあと）
別称は叔父ヶ城ともいい、勝尾城の南西部、標高約350mに築かれた城で、曲輪・土塁が良好な状態で残っています。

高取城跡（たかとりじょうあと）
標高約290mに築かれた城で、筑紫春門の居城とされています。主郭を中心に連続する曲輪、堀切、空堀が残っています。

若山砦跡（わかやまとりであと）
別称は谷山ノ城ともいい、標高約250mに築かれた城で、勝尾城が攻められた際、最後まで落城しなかったと伝えられています。

葛籠城跡（つづらじょうあと）
別称は津倉城（つぐらじょう）ともいわれ、戦いになれば勝尾城の防備の最前線となる城です。長大な二重の堀と土塁は圧巻です。

鏡城跡（かがみじょうあと）
別称は鏡山城ともいわれ、標高約170m、主郭を中心に曲輪、堀切、畝状空堀などが残っています。

家臣団屋敷跡（かしんだんやしきあと）
遺跡内では現在までに9カ所の屋敷跡を確認されています。

新町町屋跡（しんまちまちやあと）
葛籠城と惣構に挟まれており、間口約4m、奥行き約12mの短冊形の掘立柱建物群を確認されています。

惣構（そうがまえ）
城下の最も外側の堀と土塁で、当時は長さ400m以上、幅約10m、深さ約5mのV字形。土塁は、石張りが施されています。

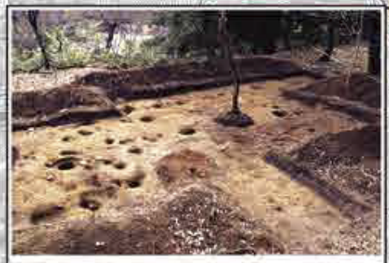
勝尾城の石垣
勝尾城の南西部の防御施設で、長さ約50m、高さ1mの規模を誇っています。

勝尾城の石垣
長径30～60cm大の自然石で築かれています。高さ4m前後の「二段積み」の石垣です。

葛籠城の空堀
東西を走る空堀の一部は、西は高取城がある山稜の斜面から東は安良川まで達し、全長700m以上の大規模なものです。

大手曲輪
勝尾城の正面に築かれた曲輪群で、高さ3mに及ぶ石垣を伴う虎口が築かれています。

勝尾城伝二ノ丸の虎口及び石塁
東の防御施設で、石塁は長さ約100m続き、枡形状の虎口(出入口)が築かれています。



筑紫氏館跡の発掘状況
焼失した建物の柱穴や壁土が確認されました。戦いで焼けてしまったのでしょうか。

館跡の虎口
枡形状の石垣の虎口(出入口)を見ることができます。館跡の正面口とされています。

新町町屋跡の発掘状況
勝尾城へと延びる伝登城道に沿って短冊形地割の町屋(掘立柱建物群)が確認されています。

凡　例

- ★ 総合案内板
- ▲ 地区説明板
- ● 遺跡説明板
- ①～⑯ 勝尾城主要誘導板
- P 駐車場
- ------ 見学ルート
- トイレ
- 史跡指定地

※ おおよそ位置を示しています。

N

勝尾城跡
鬼ヶ城跡
筑紫氏館跡
若山砦跡
高取城跡
葛籠城跡
鏡城跡
勝尾神社跡
伝 全慶寺跡
家臣団屋敷跡
空堀
伝 大手門
伝 鐘突
伝 カワラモン
伝 刺寄
資料展示室
(牛原町文化財整理室)
四阿屋神社
東橋バス停
伝 勝尾城登城道
新町町屋跡
川上左京墓
惣構
長崎自動車道

0　100　200　300　400　500m

勝尾城筑紫氏遺跡の多くの場所は私有地です。マナーを守って見学してください。
若山砦以外の城郭縄張図は、宮武正登氏作図(「佐賀県の中近世城館」第2集　佐賀県教育委員会)を使用。